

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2791900117		
法人名	大東四條畷保健生活協同組合		
事業所名	グループホームさんの社		
所在地	大阪府大東市三箇5丁目6番22号		
自己評価作成日	平成 28年 2月 23日	評価結果市町村受理日	平成 28年 5月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2791900117-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2791900117-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 3月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症であっても、その方の持っている能力を活かしていけるよう支援を行っている。</li> <li>・行事などに家族様も招き日々の様子を把握して頂いたり、また家族様同士の交流も深めて頂いている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域医療・福祉・介護を運営する法人が「私たちは、無差別・平等の医療と福祉の実現を目指す」を理念として掲げています。2011年開設のデイサービス・ヘルパーステーション・小規模多機能施設の横棟に2年前に併設され、地域の財産となるような総合的な介護の拠点になることを目指している1ユニットのグループホームです。事業所は、車の行きかう道路に面していますが、近隣は静かな住宅街の一角にあります。管理者・職員は、利用者一人ひとりにあった生活をできる限り叶うように支援し、無理強いせず、居心地良く過ごしてもらえよう、また、「ここで暮らしてよかった」と思ってもらえるように個別ケアを大切にしています。事業所内には、品の良い、手の込んだ手作り作品が多数あり、それらは、利用者の長年培ってきた刺繍、小物作り、花の手入れなどを職員と共に制作することで家庭的な雰囲気を作り出しています。サービス向上に向けて、職員も共に成長している今後に期待できる事業所です。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で共有し、日々の支援に生かせるように努めている。	開設にあたり職員間で話し合い「生きていて良かったと思える第二の我が家」を事業所理念と掲げ、その理念を達成するための行動指針をもとに目指すグループホームの実践に努めています。管理者や職員は、理念を事業所の運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。理念・行動指針は玄関入口に掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩時、近隣の方や公園で会う園児達に積極的に挨拶している。地車曳き等の地域行事では施設の近くを通る時間を自治会の方に教えて頂き、入居者様と一緒に見学に出掛けている。	利用者・職員は、日常の散歩を通して、地域の方や公園で会う園児たちと挨拶を交わしています。最近では、散歩中に近隣工場の職員から声がかかるようになり、地域住民との交流が進んでいます。事業所は自治会に加入をしています。事業所の入口には併設施設と共有の掲示板を設置し、高齢者相談、事業所行事のお知らせ文などを掲示して地域との関わりを図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	職員が三箇の自治会館に出向きさんの杜の場所や、どういった所かを知ってもらえるように努めている段階である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に行う運営推進会議の中で入居者の状況や行事、地域との交流について意見や助言を聞きサービスの向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は2カ月に1回、年6回開催しています。会議のメンバー構成は、利用者家族代表、民生委員、組合員代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員等となっています。会議では、ホーム内の現状や利用者の生活状況、行事等の活動報告を行い、改善策を検討しています。メンバーからのアドバイスにより、地車曳きの地域行事に出かけたり、神社での節分イベントに参加することができました。今年度より玄関入口の棚に会議録を設置していく予定があります。	会議の目的、構成、任期、開催回数、会議内容等を定めた運営推進会議の規程もしくは規約を早急に作成することが求められます。また、家族や委員が会議に参加しやすいよう年間計画を立てて周知を図るなどの工夫が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度について分からないことがあれば介護保険課に相談している。入居者の中には生活保護の人があり支援課担当とは連携を行っている。	市担当者とは、都度連絡がとれる関係を築いています。地域包括支援センター職員には、運営推進会議で情報提供や助言を得ています。地域包括支援センター職員のアドバイスで、市主催の新春健康フェスタに利用者、職員が参加をしました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入居者の状況を常に把握し徘徊のある人には見守りを訴えの多い人には寄り添い危険への配慮を行う。</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組んでいます。マニュアルも整備しています。事業所前は、大きな道路に面しており車等が行きかい、危険なために、玄関は電子ロックで施錠していますが、玄関内側には、暗証番号を利用者、家族に見えるよう大きな字で掲示しています。外出希望の利用者には、職員がさり気なく付き添う等の支援をしています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者の虐待への知識を学び虐待のない介護を行うように努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>自立支援事業や後見人制度について外部研修会等に参加し学ぶ機会を持ち支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について利用者や家族に十分な理解と納得をして頂けるように説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いている。又家族からの意見や要望を聞いた職員は管理者へ報告、対応に努めて運営に反映させている。	普段から、多数の家族の訪問があり、来所の際には利用者の生活状況や連絡事項を伝え、家族の意見や要望を聞き取っています。医療に関することや安全に関わることについては、その都度電話で報告し、家族から聞き取った意見を今後の医療の方針や日々の支援に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催、日常の業務について見直し等意見の交換を行い反映出来るようにしている。	管理者は職員と個別面談を行い、意見交換できる場を設けています。また、月に1度職員会議を行い、勤務時間や介護記録の書き方など、業務の見直しを職員全体で検討しています。個人目標や職場目標をたて、よりよい職場になるように意識の向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も職員と同様に業務に入り日頃からコミュニケーションをとり職員からの意見等をすぐに反映出来るよう努めている。 向上心を持って働いて貰えるように個人目標を掲げてもらっている。		
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を提供、個々に必要な研修に参加してもらっている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームに研修に出掛けたり、分からないことがあれば電話し意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問をして本人や家族の困り事、不安、要望を聞き安心したサービスを提供し良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と家族に見学に来てもらい事前に不安、要望を解消出来るよりよいサービスに繋がるよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話を多く行いご本人の必要な事をアセスメントして介護計画の作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の残在能力を活用し共に暮らすもの同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化、良かった事や新しい発見等は面会時や電話、毎月一ヶ月の日常生活の様子を手紙にてお知らせし共に支えていく関係を築いている。行事等積極的に家族参加を努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の聞き取りを行い、日常的にも家族や友人等にいつでも連絡が取れるように支援し時間を問わず気軽に来訪して頂けるよう努めている。	利用者は以前から通っていた歯医者に引き続き通っています。利用者が毎年新春に参加していた会に行った際には、顔見知りの方と出会うこともあります。ホームには家族が隣人と一緒に訪ねてきたり、学生時代の友人の来訪もあります。家族との外食や外泊も日常的に行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中、一人一人の性格や、感情の変化を理解し入居者同士の関係に気配りし支え合える関係、環境作りに心がけている。 大きなトラブルになりかけた時には、お互いの意見を聞き取るよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり退所された方にも必要に応じて相談に来て頂けるように説明を行こなっている。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情、本人のやりたい事や行きたい所等聞き取り希望を配慮するよう努めている。言葉で上手く表現出来ない人に対しても本人の普段の表情やご家族様の情報収集を実施し取り組んでいる。	利用者や家族から知り得た情報を日々の支援に取り入れています。利用者が毎日読んでいる新聞の購読の継続や、中庭で一緒に野菜を植えたり、音楽が趣味の方の為にギター演奏のボランティアに来てもらうなど、一人ひとりの思いに添った支援を心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネ、他から情報を収集し個々の生活歴を理解し自立した生活が送れるよう配慮に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神面、身体面、有する能力を配慮しご本人の出来る出来ないを見つけ出し自分自身のペースで生活出来るよう配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>スタッフ会議や申し送りなど出た意見を検討、適切なケアを行えるようにしている。</p>	<p>介護計画は、月1回の職員会議でカンファレンスを行い、3ヵ月毎にモニタリングを実施、6ヵ月毎に計画の見直しを行い作成しています。状態に変化がある時にはその都度見直しを行っています。家族からの要望を聞き、職員と家族の意見を反映した計画を立てています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>様々な気づきを記録し職員間で情報の共有を行い援助に繋げている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>柔軟に対応し必要に応じて計画書の見直し、変更を行い支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる楽しみや活性化の支援で豊かな暮らしが出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密接に連絡を取り定期的、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者がかかりつけの医師や家族の希望する医療機関で受診できるように支援しています。また、緊急時やいつでも相談できる24時間対応を整備しています。訪問看護師の週1回の対応があり、利用者のバイタルチェックを行い、健康状況を把握しています。また、重度化・緊急時などに対しては、法人内の看護会議に職員が参加し、指導やアドバイスを受けるバックアップがあり、利用者や職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問日だけではなく、24時間体制で、体調不良や異変の場合は適切な指示を受けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は状態確認や退院に向けての相談を面会や電話にて行っている。協力医療機関と情報交換を随時行い早期退院できるように関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や終末期に対する指針の説明を行い重度化した場合には家族、医師、職員と共に話し合い方針を決定して支援する体制を作っている。	入居時に重度化や終末期に対する指針を説明し、利用者や家族の同意を得ています。重度化した場合には、家族、医師、職員と共に話し合っ方針を決めています。家族の希望で、できる限りの支援をしています。事業所では看取りの経験はありませんが、終末期のケアのあり方を学ぶために、職員が外部研修に参加をしています。今後の対応について課題としていく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応や事故発生時の対応について、内部、外部、での研修を実施し、知識、技術を取得している。緊急時マニュアルを作成し事務所に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施している。災害マニュアルを作成している。	災害マニュアル(地震、防災、災害)を整備しています。年2回の避難訓練を計画し、平成27年10月には避難訓練を実施しました。平成27年6月の計画は雨のために実施できませんでした。夜間訓練については、消防署に協力を得られるよう相談をしています。災害用の水を備蓄しています。	災害や火災はいつ何時起こるかわかりません。利用者・職員の経験を積むことも大切ですので、雨のためにできなかった避難訓練を早急に実施することが求められます。また、備蓄については、事業所が必要と思われる食料等3日分位を準備し、いつでも持ち出せるようにするなど工夫をされてはいかがでしょうか。
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛け等、本人のプライドや個々の気持ちを尊重し常に配慮するよう心がけている。研修や会議等で意識向上に努めている。 入浴、トイレ、着脱の際は必ず扉を閉め入浴は個別で支援している。	職員は、利用者一人ひとりに丁寧で穏やかな言葉かけをしています。管理者と職員は、開設時に全職員で話し合い、「人生の先輩として、尊敬の念をもって接します」を行動指針に掲げる等して、利用者を尊重するケアの大切さを認識しています。	
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら話し出すきっかけ作りや表情や動作などから読み取り自己決定が出来る場面作りを支援している。 意思表示の困難の方には表情やしぐさを読み取り自己決定に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるも各々のペース、体調、気分配慮した臨機対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や清潔感に配慮しながら各々の能力に応じた支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事や誕生日会等は特別なメニューを取り入れながら日々の食事では各々の能力を配慮し、準備、盛り付け、片付け等で何かの関わりが持てる様留意している。	食事は、業者がある程度調理したものに職員が手を加えて、焼く、炒める、揚げる、和えるなどして提供しています。下準備や食材をとり分けるなど利用者はできる範囲内で手伝い、後片付けを職員と共に行います。外食でお寿司を食べに行く、ピクニックには手作り弁当持参、納涼祭では家族も一緒にバイキング形式の料理を提供しています。また、誕生日には利用者・職員手作りのケーキ、毎日のおやつはホットケーキ、カップケーキ、おはぎ、お好み焼き等とおやつ作りにも力を入れています。食事やおやつを楽しんでもらう工夫を積極的に行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	日々の献立は専門の業者による栄養 バランスの取れたメニューを各々に合 わせた食事形態にて提供し食事量、水 分量共細かくチェック表にて管理して いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科を取り入れ毎食 後各々の能力に合わせた声掛け、誘 導介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して各々の排泄 パターンや内容を配慮した上で声掛け やトイレ誘導、介助を行っている。	職員は、排泄チェック表を作成し、利用 者の排泄リズムを把握して、さり気なく トイレ誘導を行い、トイレでの自立排泄 を支援しています。夜間はオムツを使 用する利用者も日中はリハビリパンツ を使用する等原則トイレで排泄できる よう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中に体操や散歩、運動 器具を取り入れながら適切な水分、食 事接種量に配慮し医療との連携のもと で下剤服用していても対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事、入浴拒否等があれば日時を変更したり、季節、体調、状況に応じてシャワー浴、足浴、清拭を取り入れながら最低週2回の入浴を実施している。	入浴は週3回もしくは2回となっています。浴室や脱衣室は明るく、檜の木の浴槽は懐かしく家庭的な雰囲気となっています。入浴を好まない利用者には無理強いせず、本人が入浴する気持ちになるような声かけをしたり、時間や日にちを変えて対応しています。要介護度が重度の利用者には、併設施設にある機械浴を使用することにより、利用者の安心・安全となるような支援もしています。ゆず湯など季節の湯を楽しむこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間のメリハリに留意した上で各々の生活リズム、習慣、希望に応じた対応をすると共にゆったり休息出来る様室温、照明等環境設備にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情表は常に最新のものをファイリングした上で、スタッフ間の申し送りや記録を徹底し服薬内容を把握出来る状態にしている。セッティング時や与薬時には必ずダブルチェックを実施し、声出し、本人、日時確認や嚥下確認を行い、誤嚥防止に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を配慮し負担のかからない範囲で家事や趣味、レクリエーションを取り組み、その人らしい暮らしとなるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は日常的に行い、定期的に季節の行事を計画し遠出にも出かけるよう支援している。	ホーム近辺には大小3カ所の公園があり、日常的に散歩に出かけています。鶴見緑地の大芝がある公園には、おにぎりなどを利用者と職員が作り、弁当を持参してのピクニックを楽しんでいます。季節の行事には、年間計画を立てて遠出しています。行事には桜見、藤、あじさい、初詣などの少し遠出の外出があり、出かける際には家族の協力もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族様よりお預かりしているお金で買い物や支払いを支援している。小額のお金を持っておられる方は各自で管理して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があればホームの電話でかけてもらっている。暑中見舞いや年賀状等書く機会を提供し支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ちソファ、テレビ、本、ラジオ等をフロア内に置き季節に応じた手作り展示品も飾っており、くつろげる空間を工夫している。	ホームの玄関前には、花壇が整備され季節の花が咲いています。玄関入口に掲示している写真や、本棚に設置してあるアルバムには、利用者の素敵な笑顔があふれており、居心地よく生活している様子が見て取れます。利用者の集うリビングには、片側中央にキッチンが配置され、調理する音や匂いが広がって利用者と職員の楽しい会話が弾んでいます。壁には、利用者手作りの刺繍の作品や小物が品よく飾られています。また、職員と利用者で季節を感じる展示品も作成しています。食堂には、テーブル以外にテレビコーナーやリハビリコーナーがあり、それぞれにソファが設置されています。利用者はそれぞれお気に入りの場所でゆったりと過ごしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内のソファでTVを観たり中庭も見え玄関にはベンチもあり自由に過ごせる居場所を工夫し本やアルバム、塗り絵等好きに見られる様設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自分の好きな物や写真、使い慣れた家具、入口にはご人身の表札を使用し居心地良く過ごして頂けるようにしている。	エアコン、洗面台、カーテン、リネン類はホームが用意しています。入居時には、利用者は馴染みの家具、ベッド、冷蔵庫、椅子、テーブル、テレビ、絵画、アルバム、壺、人形、化粧品などを自由に持ち込み、思い思いに使っています。職員は手作りの誕生日作品や写真を飾るなどして、利用者が安心して生活ができるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの為段差がないが事故防止の為居室には危険な物を置かず自立した生活を安全に過ごして頂けるよう見守り支援している。		